Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

令和三年度

全国吟詠コンクール決勝大会

来場歓迎・入場無料

後援

NHK

◉とき　令和3年11月28日（日）
午前9時開場・午前9時30分開始

◉ところ　笹川記念会館・国際ホール（裏表紙参照）

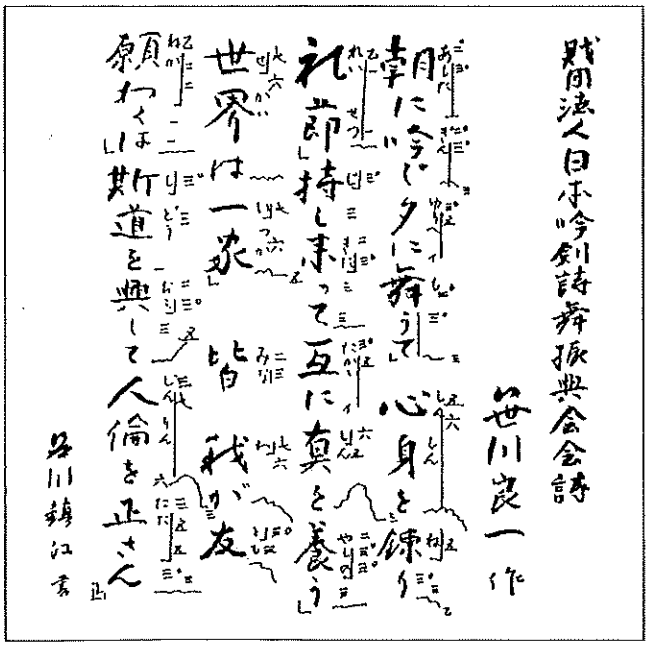
主催

公益財団法人　日本吟剣詩舞振興会

大会次第

一、開会の辞
一、国歌斉唱
一、財団会詩合吟
一、財団代表挨拶
一、競吟実施要項説明
一、審査委員紹介
一、競吟・幼年の部
一、競吟・少年の部
一、競吟・青年の部
一、競吟・一般一部
一、幼年・少年・青年の部・一般一部
審査結果発表
一、競吟・一般三部
一、競吟・一般二部
一、審査講評
一、審査結果発表
並びに入賞者表彰
一、閉会の辞

（注意）一、役員集合　午前八時三〇分
二、出演者集合　午前九時〇〇分　時間厳守



――令和三年度全国吟詠コンクール決勝大会開催にあたって――

よりいっそうの吟道振興を

（公財）日本吟剣詩舞振興会
会長　沼崎　富

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催による、令和三年度全国吟詠コンクール決勝大会が、本日ここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。

ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろとご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しましても深く感謝申し上げます。

吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に〝礼と節〟を教えるものであり、今日までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をになう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことであります。

本大会は、これら吟道に親しむ皆様に対し、日々研鑽の成果を競いあう場を与え、併せて、よりいっそうの吟道振興の資とするものであります。

出場者の皆さんにおかれては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。

最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

令和三年度全国吟詠コンクール決勝大会役員

大会会長　沼崎　富
大会副会長　多田　正稔
　　徳田　寿風
大会実行委員　池内　賢一　大田　直樹　山田　静将
　　吉田　魁桜　河野　鶴聲　大本　翠山
　　大伊達不朽　藤上　翔山　早淵　鯉將
　　安田　水鈴　入倉　昭星　藤本　誠堂
　　清水　錦洲　鈴木　吟亮　田中　国臣
　　遠藤　晃楓

審査委員

◎審査委員長　徳田　寿風
審査委員　宮川　紫朋　河野　鶴聲　奥村　精曄
　　和田　彩楓　清水　錦洲　田畑　水姫
　　池田　嶺煌　藤原光伶子　池田　菖黎
　　前山　紫峰
　　河野　正明

◎大会特別顧問
山岡　哲山　小幡　神叡　坂本　徹星　福永　瀧霊
藤原　摂楠　矢萩　鳳祥　武田　禧洲　益中　鵬山
前島　昊龍　松岡　萠洲　野中　秀鳳　八代　輝霊
廣重　光風　日置　彩峰　杉浦　容楓　増田　鵬泉
小野光翠扇　山路　泰洲　横山　寿城　山内　正風
向山　侑吟　山本　賀陽　多田　正満　八文字剛洲
安永　江悠　青柳芳寿朗　田中　岳藤　山口　華雋
横山　精真

◎大会参与
山本　兼正　黒田　秀月　熊木　雪洲　後藤　月戈
加藤　紫昇　宮島　神鳳　奥村　精曄　齋木　彩染
木村　鳳鶴　鈴木　洲玉　星野　洲虹　佐々木翠鵬
池田　嶺煌　上久保雪女　石井　桃苑　田中　竜真
松永　悠楓　榊原　静芳　矢澤　鳳慶　鈴木　凱山
石川　春洋　横田　岳瑆　星野　紫虹　志塚　心將

佐々木朝鵬　菱谷　彩佑　小林　北鵬　梶　鳳映
勝部　吼嶺　梅澤　昌峰　阿部　吟鳳　中澤　春誠
甕　経風　奥脇　嶽津　薦田　南尚　白男川洌風
髙橋　瑞祥　麻生　契春　三橋　吟煌　毛塚　静精
寺嶋　城靖　粟野　電曄　鈴木　海洲　久保田正峰
小林　岳章　渡　精華　寺山　天洲　山下　神燈
小峯　昊苑　丹治　独風　石井　誠紀　室橋　谿月
長谷部紫帛

〈県連代表〉
澤石　峯洲　梅田　錦翠　阿部　清心　斉野　岳城
寺嶋　城靖　立身　岳元　舘岡　奥鵬　宮川　紫朋
粟野　電曄　髙橋　瑞祥　一條　岳皇　黒田　秀月
齋藤　心晃　鈴木　海洲　甕　経風　清水　錦洲
毛塚　静精　篠﨑　興國　小松　獅剣　飯田　報信
入倉　昭星　臼井　寛洲　松澤　天楓　北瀬　岳櫻
渡邉　皇洲　後藤　娟桜　堀口　孝心　鉤　正賀
山田　静将　山口　華雋　松谷　國章　北川　哲水
古川　壽泉　藤上　翔山　楠部　齋山　高木　法洲

運営委員

佐藤　翔風　中林　涼風　徳田　寿風　安永　江悠
山下　明穂　濱田　翠峰　河野　鶴聲　安部　洸霊
伊藤　翠鳳　藤本　誠堂　中武　玲星　向山　侑吟
日向美代峰　金城　岳周

◎総務委員長　毛塚　静精
同　副委員長　斎木　彩染　魚住　伸水　永田　春濤
同　委員　亀井　麗岳
　　相田　華鐘（医務担当）

◎資材管理委員長　鈴木　洲玉
同　副委員長　小池　洵風
同　委員　黒田　聖岳　荒井　剛嶺

◎庶務委員長　木村　鳳鶴
同　副委員長　松村　伯玲　中島　園心
同　委員　牧　蘇新

◎計時委員長　斉藤　心晃
同　副委員長　秋山　精正　門倉　香江　猿渡　柳水
同　副委員長　白男川鶯苑

◎舞台進行委員長　田中　竜真
同　副委員長　林　煌成　長谷川煌研　立田　翔善
同　委員　萩原　勝風　渡邊　川風

◎受付委員長　寺山　天洲
同　副委員長　上久保雪女　吉野　煌瑤
同　委員　岡　晄蘭

◎連絡委員長　三橋　吟煌
同　副委員長　榊　裳風
同　委員　松宮　謳岳　竹口　吟秋　三宅　吟瑤

◎司会委員長　田中　国臣
同　副委員長　丹治　独風　奥津　春渓　今村　契鉅
同　委員　神尾　照水

◎広報委員長　星野　洲虹

◎詩文監査委員長　中野　吟紫
同　副委員長　佐々木翠鵬　伊藤　契麗　加藤　契琵

◎音響記録委員長　小林　岳章
同　副委員長　渡辺　錦翔　大関　勝風　岡田　一穂
同　委員　奥谷　宝昌　高柳　玄山　湯口　岳政

◎集計委員長　熊木　雪洲
同　副委員長　土屋　恵鵬　山田　彩綺　高橋　嶺香
麻生　契春　中田　子凰
同　委員　加茂　媛鵬　河西風慶律

◎接待委員長　山下　神燈
同　副委員長　中嶋　美声　滝本　紫苑　小谷野煌弘

◎賞典委員長　鈴木　吟亮
同　副委員長　河上　麗風　武藤　嶺栄　垣下　真萩

◎賞状作成委員長　室橋　谿月
同　副委員長　石井　錦文
同　委員　土田　谿輝　吉田　恵樹　椿　恵友

◎会場委員長　小峯　昊苑
同　副委員長　三枝　契憲
同　委員　福田　劔鵬　福田　秀峰

◎大会本部事務局
事務局長　大田　直樹
事業課長代理　大塚　政暢
総務係長　鶴町　和成

——令和三年度全国吟詠コンクール指定吟題——

●幼年・少年の部

（絶句編）

①九月十日　（菅原　道真）
②富士山　（石川　丈山）
③山行同志に示す　（草場　佩川）
④桂林荘雑詠諸生に示す（その一）　（広瀬　淡窓）
⑤弘道館に梅花を賞す（徳川　景山）
⑥早に白帝城を発す　（李　白）
⑦菊花　（白　居易）
⑧江南の春　（杜　牧）
⑨春夜　（蘇　軾）
⑩偶成　（朱　熹）

●青年・一般の部

（絶句編）

①寒夜の即事　（寂室　元光）
②赤馬が関舟中の作　（伊形　霊雨）
③立山を望む　（国分　青厓）
④易水送別　（駱　賓王）
⑤楓橋夜泊　（張　継）
⑥山行　（杜　牧）

（続絶句編）

⑦桶狭間を過ぐ　（大田　錦城）
⑧八幡公　（頼　山陽）
⑨九月九日山東の兄弟を憶う　（王　維）
⑩廬山の瀑布を望む　（李　白）

令和三年度全国吟詠コンクール決勝大会実施要項

(1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、この「全国吟詠コンクール実施要項」に基づいて実施する。

(2) コンクールは、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	資格
幼年の部	12才未満
少年の部	12才以上 18才未満
青年の部	18才以上 35才未満
一般一部	35才以上 55才未満
一般二部	55才以上 70才未満
一般三部	70才以上

（いずれも年令は令和三年四月一日現在とする）

(3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会（以下「財団」と省略）が全国八地区連絡協議会に委嘱して行われた(4)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載された氏名者以外のとび込みは許されない。尚、第四十八回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会に入選した者、及び少壮吟士として表彰された者はこのコンクールに当初から参加を認められない。

(4) 地区予選大会の名称とその包含地域

Ⅰ 北海道地区大会（道央・道南・道北・道東・北紋）
Ⅱ 東北地区大会（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟）
Ⅲ 東日本地区大会（山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京）
Ⅳ 中部地区大会（静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重）
Ⅴ 近畿地区大会（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）
Ⅵ 中国地区大会（岡山・広島・山口・鳥取・島根）
Ⅶ 四国地区大会（香川・愛媛・徳島・高知）
Ⅷ 九州地区大会（福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄）

(5) コンクールは次の審査要項によって実施する。

(イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され財団本部理事会で決定する。

(ロ) 出吟順は申込〆切後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競吟実施中に限られる。

(ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定吟題、幼年・少年の部十題、青年・一般の部十題から選び、届け出たものとする。

(ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定「吟剣詩舞道伴奏集」（以下「指定伴奏テープ」という）の前奏を確認して吟じ始める（吟題は言わない）。出吟前後の敬礼は省略する。

(ホ) 吟詠時間は二分以内に吟じ終るものとする。

(ヘ) **指定伴奏テープの本数及び曲目は、あらかじめ届け出た本数及び曲目によるものとし、変更は認めない。**

(6) 次の場合は失格とする。

(イ) あらかじめ届け出てプログラムに記載された吟題と異なる場合。

(ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一され、本年度指定された詩文の読みと異なる場合。

(ハ) 吟詠の途中で絶句（つかえること）した場合。

(ニ) 二分を超えた知らせのベルが鳴った場合。

(ホ) プログラム記載の出吟順番に遅れた場合。

(ヘ) その他、審査委員長が失格と認めた場合。

(7) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」（財団内規）によるものとし、発声（声質、技術）、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。上位同点の場合は審査委員長が各委員の意見を聞いて決定する。

(8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。

(イ) 声の美しさ、品性、渋さなどとともに発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。

(ロ) 伴奏曲と調和（音程を含む）しているかどうか。

(ハ) 共通語アクセント（わたりを含む）及びガ行鼻音が正確かどうか。

(ニ) 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。

(ホ) 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

(9) コンクール進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並び記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ録画及びテープレコーダー録音は禁止する。

(10) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合がある。

(11) 入賞者表彰は表彰式典の席上行われ、入賞者数と表彰は左の如くとする。

(イ) 入賞者数は左記の通りとする。

(ロ) 出場者には参加賞を授与する。

(ハ) 各部優勝者は第五十二回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。

(ニ) 各部入賞者に、次の賞を送る。

〈幼年の部〉

一位　会長賞・金メダル・ＮＨＫ杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位～五位　会長賞

〈少年の部〉

一位　会長賞・金メダル・ＮＨＫ杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位～七位　会長賞

〈青年の部〉

一位　会長賞・金メダル・ＮＨＫ杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位～五位　会長賞

〈一般一部〉

一位　会長賞・金メダル・民放杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位～八位　会長賞

〈一般二部〉

一位　会長賞・金メダル・民放杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位～九位　会長賞

〈一般三部〉

一位　会長賞・金メダル・民放杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位～十位　会長賞

また、各部優勝者（一位）へ授与する会長杯は持ち回りとし、各部優勝者の内から、最優秀者に高松宮妃記念杯（持ち回り）を授与する。

令和三年度・全国吟詠コンクール決勝大会・出場者区分表

資格区分 / 地区別	幼年	少年	青年	一般一部	一般二部	一般三部	合計
	12歳未満	18歳未満 12歳以上	35歳未満 18歳以上	55歳未満 35歳以上	70歳未満 55歳以上	70歳以上	
北海道	0	0	0	0	0	0	0
東北	0	1	1	1	2	2	7
東日本	2	2	2	4	5	7	22
中部	2	2	2	3	6	7	22
近畿	2	3	4	5	6	8	28
中国	2	2	2	3	6	6	21
四国	1	2	2	3	6	7	21
九州	2	3	3	4	6	7	25
計	11	15	16	23	37	44	146
入賞	5位	5位	7位	8位	9位	10位	

◎コンクール出場者氏名

〈幼年の部〉

出演順	氏名	推薦	演題	成績
1	竹川心彩	愛知	春夜	
2	原彩佳理	広島	弘道館に梅花を賞す	
3	塩谷希乃香	愛知	江南の春	
4	森内爽介	神奈川	山行同志に示す	
5	永田雄大	長崎	弘道館に梅花を賞す	
6	松葉優愛	熊本	江南の春	
7	岩田衣知	大阪	九月十日	
8	阿部尊生	東京	偶成	
9	若松柚希	京都	江南の春	
10	寺竹彩結	香川	山行同志に示す	
11	有田美優	広島	江南の春	

〈少年の部〉

12	松嶋優芽	京都	富士山			
13	南琴乃	福岡	富士山			
14	高橋知里	香川	弘道館に梅花を賞す			
15	矢吹のぞみ	福島	春夜			
16	川副琴	大阪	菊花			
17	建部有咲	愛知	早に白帝城を発す			
18	原田愛子	大分	弘道館に梅花を賞す			

19	鈴木愛琉	群馬	江南の春				
20	東條真衣	香川	早に白帝城を発す				
21	塩谷萌乃香	愛知	菊花				
22	山中七海	熊本	九月十日				
23	安念美葵子	滋賀	江南の春				
24	妹尾美怜	岡山	早に白帝城を発す				
25	石井晏璃	東京	弘道館に梅花を賞す				
26	前田紗那	広島	早に白帝城を発す				

〈青年の部〉

27	尾崎莉於	大阪	立山を望む				
28	梅田めぐみ	大分	廬山の瀑布を望む				
29	藤吉瑞季	大分	立山を望む				
30	陶山智美	高知	赤馬が関舟中の作				
31	石田恵莉	千葉	廬山の瀑布を望む				
32	寺尾陽子	香川	楓橋夜泊				
33	伊達佳内子	東京	立山を望む				
34	近藤素弘	愛知	楓橋夜泊				
35	小早川麻衣	京都	赤馬が関舟中の作				
36	若林こころ	福島	山行				
37	塩田彩花	京都	廬山の瀑布を望む				
38	松葉真緒	大阪	立山を望む				
39	高原浩輔	佐賀	山行				
40	平岡大輝	広島	山行				
41	大野統也	愛知	廬山の瀑布を望む				

〈一般一部〉

42	澁田知佳依	広島	楓橋夜泊
43	荒谷早智子	愛知	楓橋夜泊
44	河内明子	愛媛	立山を望む
45	稲垣亜子	大阪	九月九日山東の兄弟を憶う
46	加藤恭子	大阪	赤馬が関 舟中の作
47	田中達也	香川	廬山の瀑布を望む
48	久村朋美	福岡	楓橋夜泊
49	松本亜矢子	福岡	廬山の瀑布を望む
50	川口和典	福岡	桶狭間を過ぐ
51	楠部倫子	広島	桶狭間を過ぐ
52	中尾仁美	大阪	楓橋夜泊
53	甫守美和子	福岡	廬山の瀑布を望む
54	吉澤純子	東京	山行
55	板東有希	徳島	廬山の瀑布を望む
56	佐藤仁美	新潟	廬山の瀑布を望む
57	小笠原千洋	静岡	赤馬が関 舟中の作
58	小藤千枝	広島	易水送別
59	荒崎春奈	神奈川	立山を望む
60	荒崎有紀江	神奈川	赤馬が関 舟中の作
61	太田武志	千葉	廬山の瀑布を望む
62	白神信子	岡山	立山を望む
63	飯干京子	愛知	桶狭間を過ぐ
64	赤松由紀	京都	廬山の瀑布を望む

〈一般三部〉

65	山村幸子	大阪	赤馬が関 舟中の作
66	多田隈美惠子	熊本	八幡公
67	中峰子	大阪	山行
68	藤田忠三	青森	八幡公
69	浅野盛司	大分	桶狭間を過ぐ
70	長谷川公子	大阪	廬山の瀑布を望む
71	野口節生	神奈川	廬山の瀑布を望む
72	宮本康男	和歌山	八幡公
73	前原洋子	香川	廬山の瀑布を望む
74	平八重武雄	愛知	易水送別
75	高橋雄子	広島	廬山の瀑布を望む
76	新出谷ひろ子	島根	寒夜の即事
77	胡中重俊	広島	桶狭間を過ぐ
78	古川博輝	長崎	廬山の瀑布を望む
79	尾崎安彦	大阪	山行
80	藤森眞澄	岡山	立山を望む
81	竹内芳子	岐阜	桶狭間を過ぐ
82	金堀孝行	広島	易水送別
83	三浦栄一	東京	桶狭間を過ぐ
84	中根昭宏	愛知	易水送別
85	佐瀬錦子	福岡	八幡公
86	池田弘隆	香川	立山を望む
87	堀内京子	静岡	立山を望む

88	鈴野七郎	神奈川	桶狭間を過ぐ
89	桐山みや子	大阪	廬山の瀑布を望む
90	丸井房雄	三重	廬山の瀑布を望む
91	安藤智津子	香川	山行
92	児玉春雄	島根	桶狭間を過ぐ
93	赤星キミエ	愛知	廬山の瀑布を望む
94	中村利江子	香川	九月九日山東の兄弟を憶う
95	中野清光	愛知	赤馬が関 舟中の作

96	安孫子美佐子	山形	八幡公
97	川敏雄	東京	八幡公
98	山本道子	宮崎	楓橋夜泊
99	高田尚子	熊本	楓橋夜泊
100	嶌田智恵子	千葉	楓橋夜泊
101	黒川幸子	大阪	寒夜の即事
102	和田照美	東京	廬山の瀑布を望む
103	姫野ナガヱ	大分	赤馬が関 舟中の作

104	石川雅健	香川	桶狭間を過ぐ
105	谷口幸枝	大阪	桶狭間を過ぐ
106	本村忍	大阪	寒夜の即事
107	竹川いつ子	香川	易水送別
108	中島純子	千葉	山行
109	草薙賢三	香川	桶狭間を過ぐ

〈一般二部〉

110	石田義則	大分	桶狭間を過ぐ

111	本庄栄子	島根	廬山の瀑布を望む
112	木戸頌子	広島	赤馬が関 舟中の作
113	西京子	福島	易水送別
114	米持理恵	東京	山行
115	二井谷健	広島	赤馬が関 舟中の作
116	瀧下和雄	高知	立山を望む
117	田中智子	福岡	廬山の瀑布を望む
118	坂本裕覩	佐賀	山行

119	井口隆子	愛知	易水送別
120	今井美津子	大阪	八幡公
121	秋田文英	東京	易水送別
122	石井町子	千葉	立山を望む
123	鈴木眞弓	大阪	寒夜の即事
124	尾方美千代	熊本	山行
125	橋本三千代	愛知	寒夜の即事
126	大西静	高知	易水送別

127	竹田世津子	石川	桶狭間を過ぐ
128	中村雅典	愛知	八幡公
129	前重興亮	大阪	山行
130	春藤薫於里	大分	廬山の瀑布を望む
131	横山美由紀	群馬	楓橋夜泊
132	児島節	香川	九月九日山東の兄弟を憶う
133	髙橋恵子	福島	廬山の瀑布を望む
134	嶋淳一	富山	立山を望む

135	丹羽峰子	東京	桶狭間を過ぐ
136	笠岡百合子	島根	廬山の瀑布を望む
137	岡村憲夫	大阪	山行
138	樋口眞由美	福岡	桶狭間を過ぐ
139	松川吉伸	香川	桶狭間を過ぐ
140	足立ゆう子	愛媛	八幡公
141	東原恵	香川	山行
142	川口信子	京都	八幡公

143	鳥居絹子	愛知	山行
144	安部豊枝	島根	八幡公
145	西山美由紀	広島	立山を望む
146	安楽島由吏可	京都	易水送別

月刊『吟と舞』ご購読のお願い

月刊誌『吟と舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。

購読料は年間五、〇〇〇円（送料込）です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟と舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。

どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

——令和四年度全国吟詠コンクール指定吟題——

●幼年・少年の部

（絶句編）

①九月十日（菅原道真）
②富士山（石川丈山）
③山行同志に示す（草場佩川）
④桂林荘雑詠諸生に示す（その二）（広瀬淡窓）
⑤弘道館に梅花を賞す（徳川景山）
⑥早に白帝城を発す（李白）
⑦菊花（白居易）
⑧江南の春（杜牧）
⑨春夜（蘇軾）
⑩偶成（朱熹）

●青年・一般の部

（絶句編）

①生田に宿す（菅茶山）
②春暁（日柳燕石）
③出郷の作（佐野竹之助）
④蘇台覧古（李白）
⑤秋思（劉禹錫）
⑥望湖楼酔書（蘇軾）

（続絶句編）

⑦応制天の橋立（釈希世）
⑧書懐（篠原国幹）
⑨八陣の図（杜甫）
⑩漢江（杜牧）

予告

●第五十二回全国吟剣詩舞道大会

▽とき　令和四年五月五日（木・祝）

▽ところ　東京・王子

北とぴあ・さくらホール

全国吟詠コンクール決勝大会優勝者一覧表

昭和四十四年度
少年の部　綿引　文子（茨城）
青年の部　三好　紀夫（大阪）

昭和四十五年度
少年の部　河野　淳子（福岡）
青年の部　志茂野博善（静岡）

昭和四十六年度
少年の部　和田奈緒美（愛知）
青年の部　西川　多恵（愛媛）

昭和四十七年度
少年の部　青木　重子（神奈川）
青年の部　伊藤　良子（香川）

昭和四十八年度
少年の部　山下佐登子（福岡）
青年の部　荘司　愛（茨城）

昭和四十九年度
少年の部　岩崎貴代美（東京）
青年の部　赤坂　綾子（大阪）

昭和五十年度
少年の部　八代　美恵（宮崎）
青年の部　園山　順子（福岡）

昭和五十一年度
少年の部　梶川梨江子（広島）
一般一部　小宮千代香（大阪）
一般二部　濤川田鶴枝（千葉）

昭和五十二年度
少年の部　木村　昌弘（大阪）
青年の部　和田奈緒美（愛知）
一般一部　西　栄（長崎）
一般二部　中村十三年（北海道）

昭和五十三年度
少年の部　今中　彰子（岡山）
青年の部　青木　重子（神奈川）
一般一部　佐々木司郎（京都）
一般二部　牧野　静江（兵庫）

昭和五十四年度
少年の部　武藤　称（長崎）
青年の部　木村　繁雄（東京）
一般一部　田畑　一子（大阪）
一般二部　西村　茂（京都）

昭和五十五年度
少年の部　畑中　美香（香川）
青年の部　北岡　京子（奈良）
一般一部　小宮千代香（大阪）
一般二部　濤川田鶴枝（千葉）

昭和五十六年度
少年の部　河原　由紀（熊本）
青年の部　河野　淳子（福岡）
一般一部　北岡　京子（奈良）
一般二部　久保　晴美（奈良）

昭和五十七年度
少年の部　太田　誠（宮崎）
青年の部　堀井　良美（岐阜）
一般一部　池田　功（東京）
一般二部　岸田　蔓子（大阪）

昭和五十八年度
少年の部　梶野　洋子（福岡）
青年の部　戸田　高子（山梨）
一般一部　大森加寿子（香川）
一般二部　栗山ハツ子（大阪）

昭和五十九年度
幼年の部　入江　有希（東京）
少年の部　松葉　冨美（大阪）
青年の部　伊藤美智子（神奈川）
一般一部　北瀬くみ子（石川）
一般二部　高久田　充（福島）
一般三部　佐々木　豊（広島）

昭和六十年度
幼年の部　早川　貴子（群馬）
少年の部　田沢　淳子（神奈川）
青年の部　八代　美恵（宮崎）
一般一部　奥村　愛（東京）
一般二部　松浦　節子（大阪）
一般三部　松尾智恵子（兵庫）

昭和六十一年度
幼年の部　岩橋輝司子（福岡）
少年の部　鍋谷　明美（大阪）
青年の部　松葉　冨美（大阪）
一般一部　岡林　一孝（高知）
一般二部　石川　貞代（大阪）
一般三部　鈴木　又治（愛知）

昭和六十二年度
幼年の部　山田　美和（広島）
少年の部　広瀬　貴子（大分）
青年の部　白井万起子（大阪）
一般一部　前重　興亮（大阪）
一般二部　野田マサ子（福岡）
一般三部　吉田千鶴子（栃木）

昭和六十三年度
幼年の部　並木　道子（東京）
少年の部　田仲　志帆（愛知）
青年の部　小林あかし（東京）
一般一部　高木真知子（宮崎）
一般二部　牧　庸二（大分）
一般三部　井原ケサノ（佐賀）

平成元年度
幼年の部　堂前　優子（大阪）
少年の部　西岡佐智世（大阪）
青年の部　宇井　久絵（千葉）
一般一部　坂田　昭（京都）
一般二部　板谷加代子（岡山）
一般三部　朝輝　寛（兵庫）

平成二年度
幼年の部　宮本ロサリー（神奈川）
少年の部　田村　勇樹（大阪）
青年の部　菅　美恵子（兵庫）
一般一部　角地　慶子（福岡）
一般二部　滝田　主計（東京）
一般三部　白石　秀雄（東京）

平成三年度
幼年の部　後藤末由子（三重）
少年の部　宮本ロサリー（神奈川）
青年の部　小池　貴子（群馬）
一般一部　鈴木　久子（愛知）
一般二部　森本　治郎（岡山）
一般三部　岩谷　正義（大阪）

平成四年度
幼年の部　池田　拓真（奈良）
少年の部　笹本　若未（愛媛）
青年の部　松葉　和美（大阪）
一般一部　武田志津子（大分）
一般二部　間島　久巳（東京）
一般三部　小崎　定雄（愛媛）

平成五年度
幼年の部　加藤　亜弥（愛媛）
少年の部　池田　拓真（奈良）
青年の部　鈴木　聖子（愛知）
一般一部　須藤　賢二（神奈川）
一般二部　上山　寿子（和歌山）
一般三部　渡辺　盛（東京）

平成六年度
幼年の部　中田　絢子（神奈川）
少年の部　沖野なつ子（兵庫）
青年の部　西岡佐智世（大阪）
一般一部　米本　敬子（岡山）
一般二部　藤原真佑美（大阪）
一般三部　平田　富子（岡山）

平成七年度
幼年の部　本田　皓子（兵庫）
少年の部　高木　早苗（山口）
青年の部　山岡　貴子（兵庫）
一般一部　照井あかし（東京）
一般二部　鈴木　順子（大阪）
一般三部　牧野　静江（兵庫）

平成八年度
幼年の部　池田　篤朗（奈良）
少年の部　今　由香里（大阪）
青年の部　原　弦太朗（兵庫）
一般一部　矢野まつみ（和歌山）
一般二部　藤本　鉄郎（東京）
一般三部　青木　茂（静岡）

平成九年度
幼年の部　井戸　隆裕（大阪）
少年の部　楠本　友見（福岡）
青年の部　北野　晶子（大阪）
一般一部　大木津多代（兵庫）
一般二部　森田　智子（大阪）
一般三部　堤　久代（佐賀）

平成十年度
幼年の部　河野　良宗（福岡）
少年の部　西原麻里子（愛媛）
青年の部　宮本ロサリー（神奈川）
一般一部　山岡　貴子（兵庫）
一般二部　佐藤　弘子（福岡）
一般三部　岡本ヨシエ（栃木）

平成十一年度
幼年の部　後藤　啓佑（三重）
少年の部　井戸　隆裕（大阪）
青年の部　山岡三千世（兵庫）
一般一部　尾崎　冨美（大阪）
一般二部　松永眞由美（三重）
一般三部　伊藤　昇（愛知）

平成十二年度
幼年の部　西田　陵（山口）
少年の部　河野　良宗（福岡）
青年の部　今　由香里（大阪）
一般一部　市吉万起子（大阪）
一般二部　生方　照代（東京）
一般三部　山戸　康子（大阪）

平成十三年度
幼年の部　大原　侑実（東京）
少年の部　荒崎　泰奈（神奈川）
青年の部　林　綾香（東京）
一般一部　長山　悦子（奈良）
一般二部　長谷川照子（愛知）
一般三部　馬場圭一郎（福岡）

平成十四年度
幼年の部　西田　和樹（山口）
少年の部　後藤末由子（三重）
青年の部　鍋谷　明美（大阪）
一般一部　志田　香織（東京）
一般二部　中島　豊（奈良）
一般三部　桜井　進（東京）

平成十五年度
幼年の部　伊藤　雅采（愛知）
少年の部　長坂　理絵（愛知）
青年の部　池田　拓真（大阪）
一般一部　府川有紀子（神奈川）
一般二部　須藤　賢二（神奈川）
一般三部　松尾　泰輔（福岡）

平成十六年度
幼年の部　難波　初衣（兵庫）
少年の部　山本　純子（大分）
青年の部　奥村　由美（東京）
一般一部　土澤なぎさ（栃木）
一般二部　野島　綺未（東京）
一般三部　河島　末松（福岡）

平成十七年度
幼年の部　伊達佳内子（東京）
少年の部　遠藤　衣恵（群馬）
青年の部　仲宗根　香（大阪）
一般一部　榮　葉子（沖縄）
一般二部　堀川　泰司（群馬）
一般三部　山内チヨコ（広島）

平成十八年度
幼年の部　西田　伽湖（山口）
少年の部　村上　佳（大阪）
青年の部　空　晴美（福岡）
一般一部　安藤　聖子（愛知）
一般二部　中山紀代志（富山）
一般三部　澤田　明穂（高知）

平成十九年度
幼年の部　東本　舞（岡山）
少年の部　竹田　麻美（大分）
青年の部　荒崎　春奈（神奈川）
一般一部　原　優子（兵庫）
一般二部　武　直子（岡山）
一般三部　廣瀬登志夫（石川）

平成二十年度
幼年の部　藤吉　瑞季（大分）
少年の部　森田　夏代（鹿児島）
青年の部　堂前　優子（大阪）
一般一部　向山　里水（熊本）
一般二部　平松美智子（岡山）
一般三部　横沼　邦男（山口）

平成二十一年度
幼年の部　佐藤　百恵（大分）
少年の部　渡辺　真生（福岡）
青年の部　藤井　真美（愛知）
一般一部　空　晴美（福岡）
一般二部　澤頭　翠（東京）
一般三部　松行　清子（福岡）

平成二十二年度
幼年の部　近藤　泰弘（愛知）
少年の部　西田　伽湖（山口）
青年の部　恒成　育香（大分）
一般一部　向山　人水（熊本）
一般二部　林　潤子（東京）
一般三部　佐藤　弘子（福岡）

平成二十四年度
幼年の部　西田　陸人（山口）
少年の部　向山　諒一（熊本）
青年の部　荒嶋有紀江（神奈川）
一般一部　山岡三千世（兵庫）
一般二部　樋口　康子（奈良）
一般三部　永井　節子（広島）

平成二十五年度
幼年の部　西部千紗希（岐阜）
少年の部　佐藤　百恵（大分）
青年の部　井戸　隆裕（大阪）
一般一部　中野　博行（大阪）
一般二部　山田　守（大阪）
一般三部　白石多恵子（大分）

平成二十六年度
幼年の部　西山　優花（広島）
少年の部　松葉　真緒（大阪）
青年の部　森田　夏代（鹿児島）
一般一部　西岡佐智世（大阪）
一般二部　堺　健次郎（福岡）
一般三部　神崎　建次（愛媛）

平成二十七年度
幼年の部　米澤　早智（長野）
少年の部　寺尾　琳子（香川）
青年の部　村上　佳（大阪）
一般一部　石川　千尋（福島）
一般二部　藤田　忠三（青森）
一般三部　松宮　弘亨（東京）

平成二十八年度
幼年の部　安念美奏子（滋賀）
少年の部　藤吉　瑞季（大分）
青年の部　北川　由紀（広島）
一般一部　宮本ロサリー（神奈川）
一般二部　中村利江子（香川）
一般三部　原　喜代美（東京）

平成二十九年度
幼年の部　木山　咲良（兵庫）
少年の部　西部千紗希（岐阜）
青年の部　綿谷未由子（三重）
一般一部　岩城　伸子（兵庫）
一般二部　玉越　律子（大阪）
一般三部　山田　守（大阪）

平成三十年度
幼年の部　原田　愛子（大分）
少年の部　原　光希（兵庫）
青年の部　松葉　朋実（大阪）
一般一部　石渡　千紘（愛知）
一般二部　富山　正一（大阪）
一般三部　中山　豊子（長崎）

令和元年度
幼年の部　宿利　壮平（大分）
少年の部　東　瑞（大阪）
青年の部　向山　諒一（熊本）
一般一部　藤井　真美（愛知）
一般二部　今村　満成（福井）
一般三部　山地　好信（香川）

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

財団法人　日本吟剣詩舞振興会
会長　笹川　良一
ほか　役員一同

一、基本姿勢
吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。

二、指導者の心構え
吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては権威をもって臨む。

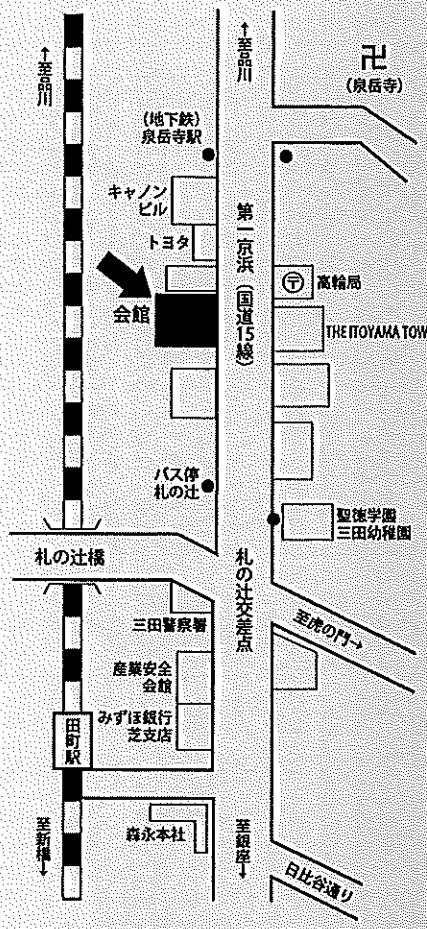
三、師に対する心構え
吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。

四、分家・独立
吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。

五、他流との関係
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎しむ。

六、吟剣詩舞道の普及向上
吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。

七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力
吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもって日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。



笹川記念会館

〒108-0073　東京都港区三田三丁目12番12号　TEL.03(3454)5062

（最寄駅）　●ＪＲ田町駅（三田口）より徒歩約10分
●地下鉄都営浅草線、泉岳寺駅より徒歩約７分

公益財団法人 **日本吟剣詩舞振興会**

〒105-0001　東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電　話　(03)　６７２１－５９５０（代表）
ＦＡＸ　(03)　６７２１－５９６０